

2023 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 チャイルドドクター・ジャパン

I 事業の期間

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

II 事業の成果

(1) 特定非営利活動に係る事業

①東アフリカケニアでのボランティア医療活動

i) 海外活動

ナイロビのケニア事務所を基盤に次の事業を実施した。

(ア) 医療スポンサーシップ事業（チャイルド支援事業）

◎総括

まず 2023 年度の事業を概括する。コロナ禍の中、ケニアでの医療支援事業を、例年通り実施できた。支援しているチャイルド数は、直近では、496 人（2015 年度末）、473 人（2016 年度末）、472 人（2017 年度末）、470 人（2018 年度末）、583 人（2019 年度末）、700 人（2020 年度末）、888 人（2021 年度末）、1014 人（2022 年度末）と推移していたが、2023 年度末時点では、1521 人のチャイルドを支援登録しており、昨年度に比べて、支援チャイルドの数が 50%増となった。

◎各事業詳細

(1) 特定非営利活動に係る事業

①東アフリカケニアでのボランティア医療活動

i) 海外活動

(ア) 医療スポンサーシップ事業：

a. 保健医療サービスの提供

チャイルドドクター制度^{*1}を利用し、子ども達への無料医療支援と手紙配布事業を行った。2024 年 3 月時点で、低所得地域に暮らす子ども 1464 人（前年同時期 915 人）、孤児院・施設に暮らす子ども 39 人（同 59 人）、慢性疾患を患う子ども 36 人（同 40 人）、合計 1539 人（同 1014 人）が登録され医療支援を受けている。

具体的には、

- ①支援が必要なチャイルドの選定、②医療施設の選定、③患者搬送の手配、
- ④チャイルドが利用する医療施設等への支払い、⑤慢性疾患児の装具の発注と配布、
- ⑥手術の手配と入退院のサポート、⑦検査の手配、⑧リハビリの手配、
- ⑨慢性疾患児の薬品の発注と提携企業による患児宅へのデリバリー、
- ⑩チャイルドの死亡時の対応、
- ⑪チャイルドからのお手紙受け取り業務、⑫ドクターからのお手紙配達業務、
- ⑬スタッフからドクターへのチャイルドの状況報告業務、
- ⑭支援者からケニア事務所への問い合わせへの対応、

を実施した。

チャイルドへの支援サービスでは、プログラムに登録しているチャイルドの医療費はすべて無料とし、外来・検査・薬・リハビリ・手術や専門的治療、加療を含む高度な医療サービスを、提携する国立・県立・民間病院等で受けられるようにした。そのすべての治療費を団体が負担した。

b. 健康管理、生活向上への支援

a. の保健医療サービスの提供体制が整い定着してきたが、子ども達の健康な暮らしのためには、急性疾患・慢性疾患のいずれもこれまでの無料医療支援のみでは根本的な解決に至らないことが問題としてあった。そこで、長年の活動の中で必要と考えてきた点について、パイロット事業として下記の2つを開始した。

・子ども食堂:スラムには、平日、学校に行っていない子ども達がいた。貧困が原因で、食費がなく、前日から食事をとっておらず、給食費(1日50円)も払えない子ども達があり、免疫が低下し病気に感染しやすい状態にあった。こうした子ども達を対象に、団体が指定する食堂にて、栄養のある食事を提供し、のべ800人の子ども達が昼食をとることができた。

・シングルマザー食糧支援:定期的に、スラムのお母さん達への家庭訪問を実施した。中には、生まれたばかりの赤ん坊を抱えながら、仕事もできず、上の子ども達の食料を確保できず、その結果、子ども達は免疫が低下し、病気がちな家族がいた。団体では、緊急で食料支援が必要と判断したのべ14家族に、1か月分の食料を提供した。

c. 現金給付の実施

支援しているナイロビ市内の貧困地域において、今期も複数回の火災が発生、被災した支援チャイルド家庭に対して、食事支援(子ども食堂にてのべ900食分提供)、火災後の引っ越し費用や、焼失した家財道具の購入費用などを助成した。なかでも2024年2月に発生したサウスランドスラム(人口約6,000人)でのガス爆発による火災は規模も大きく、夜間帯の発災であったこともあり135の家屋が焼失。うち40軒が支援チャイルドの家庭であったが、活動費不足からすべての支援が困難であったため、ホームページ等を通じて緊急募金を実施、3月末までに約300万円近い支援が集まった。余剰金については、災害支援基金として繰り越し、支援地域での災害等発生時の支援に充てさせて頂くこととした。

ii) 国内事業

2024年3月末時点の各会員数は、正会員84人・427口(年会費1口1,200円)、賛助会員2社・30口(年会費1口100,000円)、継続支援会員3,108人・3,846口(年会費1口12,000円、18,000円、24,000円)であった。

a. 会員維持(継続支援会員=チャイルドドクター)と会員拡大

2008年12月にチャイルドドクター制度を開始。2024年3月末時点で、3,108人が支援登録中(昨年同時期2,752人)。退会者数399人(昨年同時期156人)、新規入会数754人(昨年384人)。また、支援口数は、1,000円換算で4,928口数の登録(昨年同時期4,327口)であった。なお、退会者399人のうち、本人申出の支援中止は378人。残り21人については、「支援金長期未納・支援再開依頼に応答なし(又は連絡不能)」のため、事務局で登録解除した。

※1 チャイルドドクター制度

1口1ヶ月1,000円~の支援金で1人の子どもと交流しながら医療支援を実施。会員種別は「継続支援会員」、スポンサーを「ドクター」、支援児を「チャイルド」と呼ぶ。ホームページ上で支援申し込みができる。支援を受けた子どもは無料診察券を受領し、医療サービスを無料で受けられるようになる。支援金(会費)納付はクレジットカード決済、銀行振込を利用(利用率:カード決済60%、銀行振込40%)

2022年度より、新規会員に対しては、1口1ヵ月1,000円をなくし、1口1ヵ月1,500円以上の支援のみとした。(円安による為替レートの悪化、世界的な物

値上昇により、月 1,000 円の支援額では、現地での医療費をまかなうことができず、子ども達の治療を継続できなくなっているため)

2020～2023年の4年間の継続支援会員の月平均支援額は、前年度を100%とした時、翌年度の割合を見てみると4年平均110%で推移している。2023年度は135%で、例年以上の高い増加率で推移している。これは、メディアライツ社提供のお手紙配布システムの利用、現場担当スタッフの手紙配達（2023年度は22,970通の手紙をケニアから支援者へ配布）、翻訳ボランティアによる翻訳作業（翻訳ボランティア登録者数1,748人）、日本人医師による医療レポート、リハビリの先生方からのリハビリレポート、入退院の連絡、facebookやブログでの報告、本部スタッフによる未納連絡、オンラインボランティア事業等により、高水準を維持し続けている。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
月平均支援額	2,095,537円	2,080,870円	2,220,162円	2,989,120円
前年度比円	+24,375円	△14,667円	+139,292円	+768,958円
前年度比%	101.17%	99.3%	106.69%	134.64%

b. 広報・PR

コロナ禍後も、円安による物価高騰等により家庭の支出は縮小傾向にあった。そうした中、子どもの教育費については増加傾向にあった。副理事長の助川理子により、学生を対象とした複数のオンラインボランティア事業が立ち上げられた。学生を通じて、親世代に認知が広がった結果、754人の新規支援者を獲得し、子ども達の支援数増（前年度比50%増）に繋がった。

c. システム

予定していた未納会員に対する自動督促機能、寄附後の自動領収書発行機能等については導入できなかった。

(2) その他の事業

② 東アフリカケニアの特産品・民芸品の販売

事務局運営上の問題で地域イベントでの販売会は実施しなかった。

Ⅲ 事業の実施状況

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 東アフリカケニアでのボランティア医療活動

〔内 容〕 東アフリカケニアでのボランティア医療活動

〔実施場所〕 東アフリカケニア

〔実施日時〕 通年 平日（※）8時45分～16時15分（※ケニアの祝祭日を除く）

〔事業の対象者〕 東アフリカケニアで医療を必要とする人

〔収 入〕 50,402,643円

〔支 出〕 25,811,965円

（人件費 6,856,518円、会議費 4,645円、旅費交通費 411,081円、通信費 141,791円、消耗品費 601,866円、地代家賃 154,312円、支払報酬 3,352,423円、支払手数料 184,514円、ソフトウェア・保守管理費 211,994円、医療品費 10,244,997円、業務委託費 3,640,240円、新聞図書費 1,260円、租税公課 6,324円）

(2) その他の事業

① 会報冊子販売

〔内 容〕 オリジナルカレンダーを会員および一般に販売
〔実施場所〕 日本国内
〔実施日時〕 通年
〔事業の対象者〕 日本在住者
〔収 入〕 0円
〔支 出〕 0円

②東アフリカケニアの特産品・民芸品の販売

〔内 容〕 ケニアの特産品・民芸品を会員および一般に販売
〔実施場所〕 日本国内
〔実施日時〕 通年
〔事業の対象者〕 日本在住者
〔収 入〕 0円
〔支 出〕 0円

IV 社員総会の開催状況

〔名 称〕 2023 年度総会
〔日 時〕 2023 年 6 月 29 日（木曜日）15 時から 15 時 30 分まで
〔場 所〕 社会医療法人医真会 本部棟 1 階 会議室
〔社員総数〕 正会員 89 名
〔出席者数〕 71 名
うち、委任状出席 35 名（議長 31 名、理事長 森功 4 名）
書面表決 33 名（第 1～4 号議案：賛成）
〔議案の内容〕 第 1 号議案 2022 年度 事業報告
第 2 号議案 2022 年度 収支決算報告
第 3 号議案 任期満了に伴う役員の選任について
第 4 号議案 議事録署名人の選任について
〔審議結果〕 以下の通り
第 1 号議案 審議の結果、全員異議なく承認された
第 2 号議案 審議の結果、全員異議なく承認された
第 3 号議案 審議の結果、全員異議なく承認された
第 4 号議案 全員一致で議長一任となり、議長指名の 2 名が承諾した

V 理事会の開催状況

〔名 称〕 2023 年度理事会
〔日 時〕 2023 年 7 月 6 日（木曜日）14 時から
〔場 所〕 社会医療法人医真会 本部棟 1 階 会議室
〔議案の内容〕 第 1 号議案 理事長、副理事長選出について
〔審議結果〕 以下の通り
第 1 号議案 審議の結果、理事長に理事宮田久也、副理事長に理事助川理子が就任した

以上